

第1回神奈川県住宅政策懇話会における主な委員意見

■既存住宅ストックの活用について

- ・持ち家の余剰、民営借家ストックが充足するかどうかの懸念について、地域的な視点も含めて予測できるか。また、相互補完ができるのかどうか。
- ・高齢者が施設に移った後の住宅を円滑に市場に出せれば、需要と供給の新しいマッチングの場を増やせるのではないか。
- ・高齢者の住まいを考える際は、グループホーム、有料老人ホームなど、多様化する最高齢期の住まいを見通していく必要がある。
- ・新築・中古住宅の価格がここ2年くらいで急に上がっており、その対応の検討も必要。

■地域活性化、コミュニティの活性化等の取組について

- ・地域活性化等の取組のプレーヤーにとって、活動に共感する仲間が非常に重要。
- ・プレーヤーと仲間をつなぐ地域のシェアオフィスなどの場の役割が大事。
- ・地域のコミュニティの輪の中に不動産屋が少ない。
- ・人的資源や中間組織の社会資源の活用がとても重要。
- ・取組同士のプラットフォームをつくって情報が流れるようにするというアイデアがある。
- ・取組事例やデータ類を分かりやすい形で県民に共有することが大事。

■マンション対策について

- ・同じ築40年でも建設時期により建物自体のスペックが大きく異なるので、建築時期ごとに分けて見える化してはどうか。
- ・小さな自治体では人手不足の危惧がある。
- ・マンションの少ない小さな自治体ほど管理不全マンションが発生しやすい傾向にある。

■空き家対策について

- ・空き家の管理に就労継続支援B型の事業所を活用するなど、障がい者が活躍できる場所ができるとよい。
- ・空き家物件は相続問題を抱え、解決が困難なものが多い。

■応急仮設住宅について

- ・不要な証明書の省略や手続きの電子化など、DXの取組が重要。